

NEWS LETTER

Ver. 2012. 12



TRAM SYSTEM



今月のコンテンツ



携 帯

◎ スマホはまだまだ普及する？ それとも…

- ・国内外の携帯・スマホメーカーは、もっと拡大すると予測



通 信

◎ 夢物語が現実へ

- ・スマートシティとは
- ・スマートシティの ICT(情報通信技術) 導入が進む

I T

◎ クラウドコンピューティングの20年後を大胆予想

- ・普及し続けるクラウドコンピュータ、近未来では何が出来るでしょうか



電 話

◎ 2013年の固定電話が進む道

- ・携帯電話との内線通話がより身近に
- ・NTTひかり電話の普及

2012年も残りあと僅かとなりました。この1年は皆様にとってどのような1年となりましたでしょうか。

通信業界としてのこの1年は、飛躍的に技術進歩があった年だと言えます。スマホの爆発的な普及、IPv6の開始、光回線の価格競争のスタート、などなど多岐に渡り技術革新がありました。が、それらは今年のニュースレターでご紹介してきましたので、今回は未来に目を向け2013年以降通信業界がどのようになっていくのかを、『携帯』・『通信』・『IT』・『電話』の4つのカテゴリからご紹介していきたいと思えます。



◎ スマホはまだまだ普及する？ それとも・・・

・国内外の携帯・スマホメーカーは、もっと拡大すると予測

矢野経済研究所の発表によると、2012年の世界のスマートフォンとフィーチャーフォン（従来型携帯電話）の合計出荷台数は前年比9.3%増の9億5890万台、スマートフォンが47.7%増の7億台と予測されており、14年にはフィーチャーフォンの出荷台数を上回る見通しだそうです。

ここまではよく巷でも耳にしますし、TRAM NEWS LETTER 2012.04 でも言っていたことですから今更「今後の携帯電話の動向なのです！」などとドヤ顔で言われても「あっそ」で終わってしまいますよね。

※1. スマホ新春特集にて記載

そこで今回はむしろ逆の予測を立てている情報をご紹介します。

先日発売が開始された iPad mini 。片手で持てるサイズの iPad です。

その使用感や体験者の声は「iPhone 5 よりも僅かに薄い」「サイズが小さくなっただけでは無かった」「優れたバランス感覚」など高い評価を得ています。

あるスマホメーカー社員は、「今後の新しいスタイルはフィーチャーフォンと iPad mini の2刀流だね。スマホはそのうち消えますよ。」と答えています。

特に裏付けとなる数字の提示が無いので、私なんかはただのアップル信者じゃないかと邪推してしまいますが、あながちあり得ない話しでは無いのかもしれない・・・。

※1. 再発行ご希望の方はご連絡下さい:0120-266-642



◎ 夢物語が現実へ

・スマートシティとは

電力などのエネルギーを地域単位で統合的に管理する仕組みを構築し、そこに低炭素時代のエネルギー利用のありかたを強く意識した交通システムや公共サービスなどを複合的に組み合わせていきます。このプロセスを進めることで、スマートシティ・プロジェクトは完成へと向かうわけです。



豊田市に設置されたPHV・EV用の充電スタンド

しかし、2011年3月11日に東北地方を中心に想像を超える甚大な被害をもたらした大震災、そして世界中が『フクシマ』という地名を知ることになった深刻な原発事故は、スマートシティにおける都市機能としてのシステムや施策の大元となる「スマートコミュニティ」のコンセプトに大きな影響を与えました。スマートコミュニティという用語は、一般的に「低炭素時代における省エネルギーを追求しつつ、都市全体が人々にとってより豊かな生活の舞台となるように、エネルギーと社会システムを統合的に管理する。」と捉えられていますが、今回の有事に直面し、低炭素や省エネルギーというキーワードが持つ意味合いが変化し、国のエネルギー政策自体の大転換が迫られています。この状況から今後、計画されるスマートシティ・プロジェクトはもとより、現在進行中のプロジェクトにおいても、上述の一般的なコンセプトに補強する形で、リスク・マネジメントやサステナビリティ(持続可能性)、事業継続マネジメント、障害復旧計画などの観点がより強く打ち出されていくと見られます。

国内では、2010年6月に閣議決定された新成長戦略の柱の1つである「環境未来都市」構想に基づき、スマートコミュニティ実現の指標となる実証プロジェクトが4都市(愛知県豊田市、神奈川県横浜市、京都府けいはんな学研都市、福岡県北九州市)ですでにスタートを切っています。

※京都府けいはんな学研都市
けいはんな=京都、大阪、奈良をまたぐ
地域なことから付いた名前です。

◎ 夢物語が現実へ

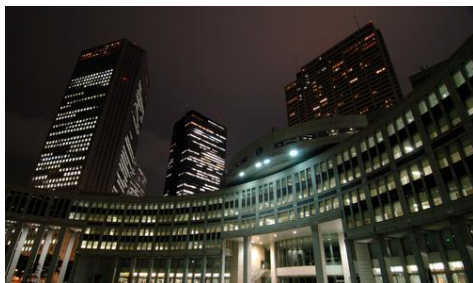
・スマートシティの ICT(情報通信技術) 導入が進む

国内では横浜市が家庭内エネルギー管理システム (HEMS) の導入するなど、エネルギー管理システム (EMS) の確立に積極的に取り組んでおり、スマートシティの完成へ向けて着実に歩を進めています。

では実際にスマートシティが完成したとして、どのような生活になるのでしょうか。代表的な管理システムをご紹介します。



米IBM スマートシティ



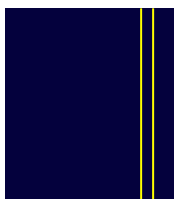
【住宅・ビルのエネルギー管理を司るHEMS/BEMS】

都市生活の要となる居住空間においてエネルギーの効率的な管理を司るシステムは、HEMS: 家庭エネルギー管理システム、BEMS: ビルエネルギー管理システムの2つがあります。いずれも、スマートメーターが収集する情報を利用して建物のエネルギー供給や需要を状況を総合的に把握し、エアコンや照明などの機器の運転・制御を行うことで、建物全体のエネルギー効率を高める効果があります。経済産業省資源エネルギー庁は、「都市レベルでのエネルギー管理が実現すれば、CO2の排出量を10~15%削減出来る。」と発表しています。



【高エネルギー効率を追求する新世代交通システム】

EVをはじめとするエコカーに搭載されるカーテレマティクス(移動体通信技術)が、自車の位置情報やエンジン燃費効率などのデータを絶えず収集・発信し続けます。それらのデータをリアルタイムに分析することで、プロアクティブに信号を制御し、渋滞の発生と事故発生リスクを抑えることが可能になります。



【モビリティ・ネットワークの活用で一新される公共サービス】

米カリフォルニア州のシリコンバレーでは、公共スペースのごみ箱などを対象に、市民が携帯電話などから専用サイトに伝えた最新情報を元に清掃しています。市民は気づきや不満を自治体にすぐ伝えられますし、自治体はゴミ箱を常に巡回する必要がなくなる。といった成果を既に挙げています。



◎ クラウドコンピューティングの20年後を大胆予想

・普及し続けるクラウドコンピュータ、近未来では何が出来るでしょうか

テクノロジーの進歩やインフラの増大により、クラウドコンピューティングが世界的に普及するのもそう遠い未来ではありません。クラウド化とされる動きは年々加速してきますが、このまま普及が進むと私たちにどのような恩恵をもたらしてくれるのでしょうか。大胆且つ現実的な路線でご紹介していきたいと思います！

1. ハードウェアがいらない

ビデオや音楽を入れておくのに大容量のハードディスクは不要になります。コンピュータは純粋にクラウドと情報をやりとりするためのインターフェースになるでしょう。

2. 全世界に向けた教育

入学から博士課程終了までの全ての教材や講義資料がクラウド上に置かれ、テキスト1冊よりも安い料金で簡単にアクセスできるようになるでしょう。

3. サイフとおさらば

モバイルデバイスがあれば紙入りません。未来には、カードや免許証類もなくなり、全てモバイルデバイスで見たり読み取ったり出来るようになるでしょう。

4. 違反、犯罪者の逮捕率UP

警察は違反車両に停止を求めるまでもなく、ナンバープレートから免許証・保険内容・前科を含む車輜や所有者の詳細が瞬時に表示されます。指紋やDNA鑑定は検索に数分しか掛かりません。

5. 部屋のエアコン消し忘れても・・・

建物に組み込まれた感知・測定装置によって、電気器具のコントロールやトラッキングが出来るようになり、コストやエネルギーの節約になります。

6. 全てがオーダーメイド

あらゆるコンテンツは、それぞれの顧客に合うスタイルやフォーマットにカスタマイズされたうえで提供されるようになるでしょう。



近未来都市・・・ではなく、現実のアラブ首長国連合に建設中の現実の街

7. 車は空を飛んでいる？



永遠の未来の象徴とも言うべき空飛ぶ車ですが、残念ながらまだまだ難しそうです。しかし、クラウドナビが後部座席に座る子供に映画を提供し、その時々交通状況を報告し、交通量を計算に入れた最短距離を教えてください。更には運転してくれるまでになるでしょう。

◎ 2013年の固定電話が進む道

・携帯電話との内線通話がより身近に

2012年12月の時点でスマートフォンの利用率は、個人:39.9%、企業:41.7% となっており、2013年には過半数を超える見込みです。ここまで普及しているとビジネスホンメーカーとしても捨てるわけにはいきません。各社スマートホンとの連動システムを研究し、次々と新サービスを打ち出しています。特に各社が注目している技術は携帯電話とビジネスホンで内線通話ができるものです。方法としては以下の3つが代表的です。

1. 回線キャリアーのサービスで内線化
2. ビジネスホン、PBX(交換機)の機能で内線化
3. wifi を使ったアプリケーションで内線化

アプリケーションの中にはキャリアー各社が出しているアプリもありますが、SIPアプリによる wifi でPBXとレジストした無料内線が2013年は主流となりそうです。

携帯の内線化が進む影響で、BOYD(個人端末利用)も自然と増えていくとみられます。現段階では携帯内線化の通話品質に疑問符が付くようなものもありますが、違和感なく通話出来る品質のものも実際に出てきています。各社こぞって開発を進めていますので、2013年以降では現在より格段に品質はよくなっていくでしょう。

・NTTひかり電話の普及

NTTによるひかり電話の普及が、ここ数年で急激に伸びています。数年前のサーバーの障害でひかり電話の回線障害が発生し、世の印象として「ひかり電話は不安定」であるとされていましたが、多額の設備投資により高い安定性が確保されるまでになっているそうです。

今後10年でISDN回線を縮小、廃止するという計画のようで 尚更にひかり電話の安定感を求めたいところですね。



BOYD: Bring Own Your Device
個人端末の業務利用



実は黒電話でもひかり電話が使えるんですよ。



トラムシステム株式会社

〒465-0063

愛知県名古屋市名東区新宿2丁目55番地

TEL:052-701-2634

FAX:052-701-2637

Mail : info@tramsystem.jp